

| 請 願 文 書 表     |  |
|---------------|--|
| 受理年月日<br>及び番号 | 令和4年11月4日<br>第46号  |
| 件 名           | 小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、<br>食べさせないことを求める請願   |
| 請 願 者         | <div style="background-color: black; width: 300px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 220px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 100px;"></div> <div style="background-color: black; width: 270px; height: 20px; margin-left: 150px;"></div> |
| 紹介議員          | 沢 田 けいじ                      小 林 れい子   |
| 請願の要旨         | 次 頁 の と お り  |
| 付託委員会         | 文 教 委 員 会  |

## 請願理由

現在、ゲノム編集食品が実質的に流通しているのは、世界の中で日本だけです。日本ではトマト・マダイ・トラフグの流通が始まっています。ゲノム編集食品は、動物に食べさせて安全性を確認する実験が行われていません。また、食品への表示もないため消費者は選ぶこともできません。そのような問題があるゲノム編集トマトの苗を、2022年には福祉施設で、2023年には小学校で無償配布する計画があります。文京区にも配布される可能性があります。

ゲノム編集とは、特定の遺伝子を壊し、品種の改良を行う技術のことです。ゲノム編集では、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。

「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。また最近の研究では、目的とする遺伝子を破壊した「オンターゲット」の場合でも、「染色体損傷」や「染色体破砕」が起きるケースが報告されています。

ゲノム編集トマトの栽培は、文京区だけの問題でなく、他の地域の農家や家庭菜園に与える影響も考える必要があります。花粉が風に乗って運ばれたり、ハチなどに付着して運ばれたり、はるか離れた場所へ移動し、交雑を起こす可能性があるためです。元筑波大学教授の生井兵治氏の計算によると、トマトの花粉の寿命は3～4日で、風速5メートルの状況下では、その飛散距離は最大1296キロメートルに達し、交雑する可能性があると言います。実際に北海道では、有機栽培でトマトを作っていた農家が、ゲノム編集トマトと有機栽培トマトが交雑することを恐れて、有機栽培トマトを作るのを断念した事例が起きています。

市民団体「OKシードプロジェクト」の調査では、全国122の自治体（部署含む）がゲノム編集トマトの苗を「受け取らない」と表明しています。「受け取る」と回答した自治体はありません。「受け取らない」と表明した理由の多くが、「安全性が確認されていないため」でした。文京区でも予防原則の立場に立ち、ゲノム編集トマトの苗は受け取らず、栽培させない、食べさせないで下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 動物に食べさせての安全評価がされておらず、目的以外の遺伝子の破壊により予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性がある「ゲノム編集食品（上記のトマト含む）」は、文京区の小学校で子ども達に栽培させない、食べさせないよう区に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」の安全性の調査・研究を独自に行い、安全性が確認されるまで、「ゲノム編集食品」は、加工品を含め、学校給食に使用しないよう区に求めること。
- 3 「ゲノム編集食品」は食品表示がなく、知らずに購入してしまう恐れがあるので、「ゲノム編集食品」の表示を種苗・作物・食品にするよう国に求めること。